

授業コード / Code	科目名 / Course Title	担当者 / Instructor	履修年次 / Semester	授業形態・単位数 / Style・Credits	必修選択の別 / compulsory subjects or optional subjects
j29208	保育内容総論	角藤 智津子	2年次・後期	演習・1単位	保育士必修

授業の概要 / Course Outline
<p>乳幼児の保育について、理論と実践を融合して学んできたこれまでの知識と経験を生かし、子どもの発達や現在の社会状況等にふさわしい保育内容、保育方法を考え、探求する。2017年(平成29年)に国の示した幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にある保育内容を理解し、保育内容5領域を総合的に展開できる保育の専門家となるよう学ぶ。授業は、可能な限り、アクティブ・ラーニングの手法を用いて、学生が主体となる対話的授業形式を取り入れる。</p>

到達目標 / Attainment Objectives	ディプロマポリシーとの対応関係 / Relationship with the diploma policy
保育と保育内容の関連について知り、自らの保育観や子ども観を形成する。	A-① D-①
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解する。	A-② B-②
子どもの発達と保育内容の5領域の関連を知り、保育における評価の意義を理解する。	B-① C-①
多様化する保育ニーズを知り、ふさわしい保育内容を自ら考えられる力を獲得する。	C-② D-②

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation		
種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記) End of Semester Examination (Written)	0%	
レポート試験 Report Examination	30%	基礎的事項を理解し、自分なりの考えを記述できるか。
実技試験 Practical skill test	0%	
平常点評価 Continuous Assessment	70%	自分なり表現方法で、課題の報告、意見の発表ができるか。

教科書 / Textbooks
1. 鈴木裕子編著『保育内容総論 乳幼児の生活文化』 ミネルヴァ書房 2018年
2. 厚生労働省『保育所保育指針解説 平成30年3月』 フレーベル館 2018年
3. 文部科学省『幼稚園教育要領 平成29年告示』 フレーベル館 2017年
4. 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示』 フレーベル館 2017年

参考書 / Reference Books
授業時に紹介する。

予習・復習 / Preparation・Review
<p>予習: 毎回授業の最後に、教科書の次回部分を示すので読んでおく。 復習: 毎回授業時に、授業内容に関する簡単な課題を出すので、Google フォームで締め切りまでに提出する。 (予習復習の時間は90分程度)</p>

課題に対するフィードバック方法 / How to give feedback on tasks
Google Classroom により添削、採点結果を伝達する。

その他 / Others

授業スケジュール / Course Schedule

※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

授業回数 Lecture	テーマ / Theme
	内容 / Contents
01	保育の基本と保育内容
	保育観や子ども観を確認し、保育と保育内容の関連について学ぶ。
02	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
	3つの法令の内容と特色を知り、幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園の保育内容の相違点を検討する。
03	保育内容の歴史の変遷
	19世紀ごろのヨーロッパの保育内容が、日本に導入されどのように変遷してきたかをその理由とともに検討する。
04	保育内容と教材
	遊びの分類と教材との関連を検討し、保育における教材は生活に根差した広範囲に及ぶものであることを知る。
05	子どもの発達特性と5領域
	子どもの発達の考え方を整理し、保育内容5領域を単発的に扱うのではなく総合的に扱うことの意味を検討する。
06	保育の評価とこども理解
	こども理解を進めるために保育実践を観察、記録、省察、評価し、保育内容の構想や計画に生かすことを考える。
07	生活や発達の連続性
	子どもはさまざまな側面が単独にはなく、相互に関連しながら総合的に発達していくことを知る。
08	環境をととした保育
	子どものある行為を可能にするアフォーダンスとしての「環境」の意味と、保育内容「環境」の意味を考える。
09	保育内容の展開の事例
	保育内容の展開の事例から、年齢による援助の仕方、遊び方を知り、保育内容の各領域との関連を検討する。
10	保育内容の展開の創造
	各自が子どもたちの生活の中にある素材を教材化し、保育内容の遊びから創造的な学びへの発展を検討する。
11	家庭・地域・小学校との連携
	乳幼児は急速な発達を遂げるが、まだ自分でできることは限られているので、保育者は各所との連携の担い手となる必要がある。
12	現代における乳児保育と保育内容
	乳児期の発達の特徴を知り、乳児保育では何が求められ、何を大切にどのような保育を行っているか知る。
	長時間保育の考え方と保育内容
現代の社会状況の中で、長時間保育はどのように行われているのかを知り、その役割と配慮すべき点を考える。	
13	特別な支援を必要とする子どもの保育内容
	特別な支援を必要とする子どもを理解し、適切な支援はどのようにしたらよいかを検討する。
14	多分化共生としての保育内容
	現代社会にはさまざまな人や文化が共生している。大人も子どもも、すべての人達が、多様性を認め合い、自分らしく生きられるようにする保育内容について考える。
15	まとめ
	これまでの保育内容総論の授業で学んだ内容について、振り返る。